

魔法の宿題 プロジェクト 活動報告書

報告者氏名:成田 芳子

所属:栃木県立足利特別支援学校

記録日:2016年 2月 26日

キーワード:「病弱・知的障害」「社会自立」「自主通学に向けての基礎的な力」

【対象児の情報】

・学年

中学3年の女子

・障害名

病弱、知的障害

・障害と困難の内容

対象生徒は、現在は、病状が安定しており、定期通院で様態を確認しながらではあるが、大きな制限なく生活することができ、学習も意欲的に行うことができている。幼い頃からまわりに大人がいる環境の中にといたため、一人で行動する経験が少なく、大人に依存してしまう傾向があったり、活動に対する見通しや学習した記憶が曖昧になってしまったりするなど、経験不足や不安感からできる力はあるけれどもまわりの様子をうかがいながら行動する様子が見られた。また、人との関わりを好むが、意思を言語化して伝えることに苦手意識を感じ、伝えたいことがあっても「分かりません」と支援を求めることが多かった。昨年度から、本人の苦手を補うツールとして iPad を活用したことで、コミュニケーション力や活動の情報を整理して自ら行動できる力の高まりが見られている。

【活動目的】

・当初のねらい

高等部進学後は、社会自立を目指し、自主通学に向けて取り組んでいきたいと考えている。そのためには、ICTを活用しながら日常生活と社会生活を結びつけ、理解を促すとともに生活力の向上を図る必要がある。iPadを必要に応じて自ら活用し、時間を意識することや通学環境における様々な情報を活用できる状況判断力など自主通学に向けての基礎的な力の向上を目指したい。

①見通しをもって行動できる力の向上

②情報を発信する力の向上

③情報を正確に得る力の向上

・実施期間

平成27年4月7日～平成28年3月10日

・実施者

成田芳子、山口典子

・実施者と対象児の関係

成田（担任）

山口（副担任、国語）

【活動内容と対象児の変化】





・対象児の事前の状況

- ・ 病弱特別支援学校に通う知的障害を伴う中学部3年の女子。
- ・ 登下校は、保護者の送迎である。一人で公道を歩いた経験がないため、自分で判断して横断歩道を渡ることは難しい。見通しがもてた活動に対しては、自分から積極的に行動できるため、適切な指導を行うことで、自主通学に必要なスキルの習得が可能である。高等部進学後や将来の自立を考え、時間を意識して自ら行動できるなど、自主通学に向けての力を高めることが重要である。
- ・ 追視認知に課題があるため、正確な文字の読み書きや模倣して動くことが困難であるが、学習に対する関心が高く、知識や技術を積むことができる。
- ・ 文字や言葉で考えや思いを伝えることを苦手としているが、iPadで撮影した写真を見せながら、短い言葉で積極的に話をするようになってきた。
- ・ 相手に思いが伝わった経験を積んだことで、言葉や文字でもっと表現してみたいという気持ちの高まりが見られている。
- ・ 前年度、魔法のワンドプロジェクトに参加し、情報を整理して、自ら行動できるよう主体性を育む学習を行った。活動を見通し、自信をもって積極的に学習に取り組めた「成功体験」を積んだことで、自ら必要な時にiPadを活用できる力が高まった。

・活動の具体的内容





(1) 見通しをもって行動できる力

時間予定を意識する

①	朝の準備の手順を確認する	「DropTalk」	
②	定時に起きて、定時に日程を確認する	「By talk」	
③	スケジュールをクラス内で共有し、予定を把握する	「Palu」	
④	朝の会に参加する	「FaceTime」	





(2) 情報を発信する力

思いや活動の内容を言葉で表現する

①	バケツ稲の観察記録	「かんさつ」	
②	活動手順書作り	「ロイロノート」	
③	思い出を共有し、自分の思いが伝わる経験を積む	「写真」 「filmstory」	 





(3) 情報を正確に得る力

必要な情報に目を向け、情報を整理する学習を積む





①	正確な漢字の書き方の理解（とめ、はらい、書き順）	「小1かん字ドリル」	
②	漢字全体のバランス構成を深める	「常用漢字筆順辞典」	
③	標識や表示など、通学環境における情報の収集と整理	「写真」 「ロイロノート」	 

・対象児の事後の変化

(1)見通しをもって行動できる力

<p>①定時に起きて、定時に日程を確認する</p>	<p>昨年度『DropTalk』で作成した朝の準備手順を頼りに、自分でできることが増えてきた。まわりからの賞賛と自分でできた喜びから、起床のリズムが少しずつ身に着いてきた。6月中旬から、起床時間が安定してきたので、『ByTalk』の通知機能を使い、朝の会でクラスに連絡したことを定時配信した。読めない漢字があった時には、読み上げ機能を活用し、内容を把握することができた。ほぼ決まった時間に既読にチェックをすることができ、「朝の会の時間」への意識の高まりが見られた。また、遅刻の電話連絡も自信をもって用件を伝えられるよう『ロイロノート』でマニュアルを作成し、実践を通して経験を積むことができた。</p>	 
<p>②スケジュールをクラス内で共有し、予定を把握する</p>	<p>クラス内で協力して『Palu』に学校行事等を手書き入力した。自分で手書き入力したことで、予定を確認することが増え、予定に合わせて行動できることが増えた。学校では、準備物等も言葉かけをしなくても自分で用意できるなど、見通しをもった活動が増えてきた。また、自ら、通院の予定などを入力しまわりに伝えたり、友達の欠席予定や教員の出張予定を把握し、それをもとにコミュニケーションを取ったりなどにも活用することができた。</p>	 
<p>③朝の会に参加する</p>	<p>7月に入り、保護者の了承も得て、『Facetime』を使い朝の会を毎日実施した。家庭の事情で登校はできなくても、支度を終えた自分を映像で伝えられたこと、友達と一緒に朝の会ができたこと、一日の流れを把握してから登校できたことなどから、自宅で気持ちが不安定になることが少なくなった。学校への遅刻の電話も毎日かかさず、定時にできるようになった。</p>	

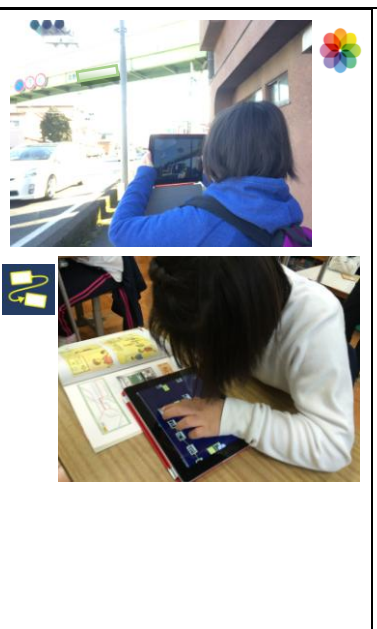
(2)情報を発信する力

<p>①バケツ稲の観察記録</p>	<p>バケツ稲をほぼ毎日観察した。まずは、気持ちや思いを言語化して表現する経験を積むことを目標に、文字入力と音声入力を使って自分の言葉で『かんさつ』アプリに記録した。毎日繰り返し学習したことで、短い文章で思いを表現することに少しずつ慣れ、教師が支援しなくても、自分で入力する言葉に応じて文字入力と音声入力を使い分け、観察記録をつけることができた。</p>	   
-------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<p>②活動手順 書作り</p>	<p>『ロイロノート』で作った調理手順書を頼りに、みそ汁作りを行った。自分で手順書を作ったことで、おおよその流れを意識して取り組み、少しの支援で行うことができた。手順が分からなくなると、確認しながら行うことができた。作ったみそ汁を中学部の友達にも飲んでもらい、作り方を話したり、感想を聞いたりしながら友達との会話を楽しむことができた。</p>	
<p>③思い出を 共有し、自分 の思いが伝 わる経験を 積む</p>	<p>昨年度からの取組で、友達や教師に学習で撮影した写真を見せながら、自分の思い出等を伝える学習を行っている。現在は、iPadをコミュニケーションツールとして自ら積極的に活用している。遠足の思い出では、自分で撮影した写真をテレビに映し、アドリブで簡単な説明を加えながら発表することができた。学期の思い出発表は、自分で写真を選び『Film story』を使って写真に文字を入力したり、写真を時系列に並べ替えたりするなど、相手に見てもらうことを意識してスライドを作ることができた。国語の授業で、絵を見ながら状況を説明する学習を行っているが、1学期に比べ、絵からだけでは読み取れない心情の部分まで想像して答えられるようになった。写真を自分の言葉の一部としてコミュニケーションを取る中で、自分の注目していなかったことを相手から質問してもらったことで、写真全体や細部に目を向けて、その状況を表現する言葉の学習を積んだことが語彙力の向上につながったと考えられる。</p>	

(3)情報を正確に得る力

<p>①正確な漢 字の書き方 の理解 (と め、はらい、 書き順)</p>	<p>視覚認知が弱いため、目と手の協応を高める学習をすること、形態認知の向上を目的として、漢字検定の練習を行った。『小1かん字ドリル』とノートでの書きの練習を、自立活動、国語、宿題等で毎日行った。漢字の学習をとっても好み、自主的に空いた時間にも学習に取り組むことができ、一対一対応が正確にできるようになり、「顔」など画数が多い漢字でも、書き順を理解して正確に書くことができた。</p>	
<p>②漢字全体 のバランス 構成理解を 深める</p>	<p>『常用漢字筆順辞典』『小1かん字ドリル』を活用し、形全体と部分の把握、全体バランスの構成理解を深めたことで、書き順を理解して正確に書けることが多くなってきた。昨年度2月に実施された漢字検定では、筆順10問中0問、漢字の書き40問中30問の正解率であったが、今年度7月に実施された検定では、筆順10問中8点、漢字の書き40問中36点と良い成績で、合格することができた。漢字の全体を見てバランスを整える学習を通して、情報を正確に捉えて表現する力、空間把握能力、認知面の向上が見られた。</p>	

<p>③標識や表示など、通学環境における情報の収集と整理</p>	<p>自主通学の前段階として、表示や周囲の環境を手がかりに状況を判断したり、交通ルールに従って移動したりできる力を高める学習や経験を積む必要がある。そこで、国語科の学習において、「いろいろな標識」という単元で、様々な施設の表示やマークなどについての学習に取り組んだ。さらに、校外学習の機会を利用して、自宅から学校までの通学ルートにおける各種の標識や交通環境、地域の様子を実際に見学した。交通量の多い道路では、白線の内側を意識して、車と適切な距離を保って歩くことができた。信号のない横断歩道でも、自分で左右を確認して自分の判断で渡ることができていた。iPadに画像として情報収集してきたものをもとに、『ロイロノート』で写真の確認やその働き等を整理し、活動を通して、実践的な知識と経験を積むことができた。</p>	
----------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------

【報告者の気づきとエビデンス】

・主観的気づき

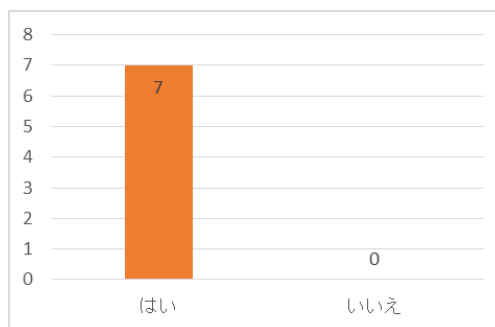
- ・ iPadの不具合により、「Face time」が繋がらないなどの事態が起きても、朝の会までに自分で電話連絡し、どうすればよいか指示を聞くことができた。
- ・ 「何をすればよいですか？」から「〇〇してもよいですか？」に変わった。
- ・ 目と手の協応性の高まりから、視覚認知力と空間認識力が高まり、全体の中の自分をとらえられるようになった。

・エビデンス(具体的数値など)

○周りからの評価

前年度以前より関わりがある7名にアンケートを実施した(生徒1名、教員6名)

① iPadで学習を行った(対象生徒)は、学習前と比べて、なにか変化はありましたか？



②具体的に、どんなところが変わったと思いますか。

[生徒より]

書けなかった漢字を、iPadを見ながら書けるようになったのがすごいと思いました。
言われなくても自分からやるなど、中学生になって、すごくお姉さんになった感じがしました。

[教員より]

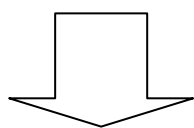
- ・ 以前は、話をする時に、自信がなさそうにしていたが、しっかり伝えられるようになってきた。語彙の向上、伝える技術の向上がみられている。iPadを支援ツールとすることで、自分の力を補うことができ、生活全般においての情報処理能力の向上、自信の高まり、積極性がでてきている。
- ・ 操作の仕方を理解してからは、自分から積極的に調べたり、まとめたり発表に活用したりできるようにな

り、意欲的に学習に取り組むようになったのではないかと思う。学習だけではなく、他者とのコミュニケーションに活用したり、余暇にも有意義に活用したりして、生活の幅も広がり、自信をもつことができ、とても良かった。

- ・ i P a dを活用することで、以前よりも「自分から」という気持ちを感じられる。写真として記録に残っていたことと記憶が一致することで、安心して行動に移せ、それが、自信につながっている感じがした。また、絵を描くとき、i P a dで画像を自分で検索して出していた。教師から提示されるよりとても良い。自分でやろうという積極性につながっていると思う。
- ・ i P a dで撮影した写真を必要な時にすぐ検索して、役立てることができていた。
- ・ 分からないことは、「だれかに聞く」という姿勢から自分で i P a dを使って調べるという積極的な姿勢に変わった。読み書きが苦手だと自分で分かっていたので、何をやるにも消極的なところが見られたりしたが、i P a dを使い、自分でもできることが増えて自信がついてきている。「朝の会に参加できる」という自信が、登校時の表情にも出ていて、登校後スムーズに活動に参加できている。自分のことを語ることが増え、丁寧語も使え、言葉の表現が膨らんできたと思う。
- ・ 魚釣りゲームの魚をつくる時に、「i P a dがあればできるのに」とつぶやいていた。使っていると伝え、魚の写真や絵を検索し、見ながら魚の絵を描いていた。どのような時に使用すればよいか、理解して使っていると感じた。まわりの生徒も「どんな魚がいるの？見せて。これ、描いてみよう」と反応し、対象生徒が中心となった活動に変わっていた。人についていくことが多かったが、i P a dを利用して、できる方法を得ることで、まわりと対等に関わりあえていたことが良いなと思っていた。また、これがあればできるという自分の苦手さ（例えば、折り紙の本では無理でも、動画を見れば折れるなど）を、どう補うかを理解できていること、使いこなしていることなどに成長を感じた。

○気づきに関するエビデンス

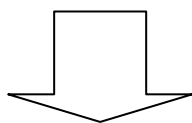
- ・ 家庭の事情で学校に登校できなくても、「F a c e t i m e」での朝の会で、学校との繋がりを感じ心理的に安定して行動ができた。結果、時間を意識して自ら行動できた。
- ・ 行動や思いを文字として表す学習を繰り返したことで、見通しをもつ力や語彙が増えた。少し難しい課題も、どうすればクリアできるか自分なりに考えて積極的に行動できた。
- ・ 言葉かけがなくても、動きがある危険物（車など）との適切な距離を意識することができた。



時間への意識向上

必要な情報を得て発信するスキルの向上

視覚認知力と空間認識力の向上



自信の高まり、自主通学に向けての基礎的な力の向上

・その他エピソード(画像などを含めて)

高齢者福祉施設訪問

高齢者福祉施設訪問に際し、生徒同士の話し合いの結果、紙芝居の読み聞かせを行うことになった。しかし、広い場所で大人数での読み聞かせのため、後ろの人にも絵が見える配慮が必要であった。対象生徒は、日頃の学習を活かし、iPadで紙芝居の写真を撮影し、トリミングを行い、利用者の方が見やすいように工夫するなど、自分の分担された仕事に対し、責任をもって行うことができた。当日は、iPad操作を担当し、友達の読む原稿に合わせてタイミングよくスライドすることができ、友達と力を合わせてiPad版紙芝居を成功できた喜びを感じることができた。



院内学級の友達へのクリスマスプレゼント作り

普段なかなか会えない本校院内学級の同じ中学生に向けて、クリスマスプレゼント作りを行った。「折り紙」という指定から、折り紙でリースを作ることを考え、教師の支援がなくても自分で工夫してプレゼントを作ることができた。

①デザイン案を考える



②折り方の検索



③完成



Bytalkの利用

メモの代わりに、ホワイトボードに書いてある必要な情報を写真を撮り、クラス内での情報共有に活用することができた。また、自宅に帰ると、家族との会話を中心となることが多く、なかなかクラスの友達と会話をする機会をもつことが少ない。そこで、ちょっとした疑問や会話が気軽にできるよう、教師や保護者の目の届く Bytalk で SNS の便利さやマナー等を学んだ。情報モラルについて、実践を通して知識や経験を積むことができた。

